

全日本テコンドー選手権大会準優勝

## 樽本 佳奈 さん (米湊)



朝鮮半島の伝統的武術で、韓国のもう一つの伝統的武術である「テコンドー」。華麗で多彩な足技が何よりの特徴で、そのスピーディな動きから別名「足のボクシング」ともいわれます。

樽本佳奈さんは、今年3月に東京国立代々木第2体育館で行われた「第20回全日本テコンドー選手権大会」個人組手女子マイクワロ級で、見事準優勝に輝きました。

樽本さんとテコンドーの出会いは大学生の時。新入生としてクラブを見学したことがきっかけでした。「テコンドーを見たのはその時が初めてでした。先輩たちの姿がとてもかっ



▲鮮やかな蹴り技が決まります。

こ良くて、それまで格闘技の経験はなかったけれど、私もやってみたいと思っただけです。」

2年生からはクラブのほかにも道場にも通い、試合前には他大学の練習にも参加して技を磨きました。

これまでに経験してきた数々の試合で、常に意識してきたのは「勝ちたいと思うのではなく、必ず勝つという気持ちで試合に臨む」という先生の言葉です。その信念で、昨年行われた中四国大会で優勝を飾り、全国大会への切符を手に入れました。「全国大会の決勝は、中四国大会で勝っていた選手が相手でした。負けた試合で終わってしまったので、すべてに準優勝の実感もわからず、悔しい気持ちでいっぱいでしたが、メダルをいただいて、改めて喜びも感じました。」

樽本さんが属する45kg以下のマイ

クワロ級が種目として採用されたのは今から2年前。それまでは自分よりも大柄な選手を相手にすることが多く、試合ではどうしても不利になるため、「自分には向いていないのでは…」と悩んだ時期もあったそうです。それでもやめずに続けたことで、段をとることができ、自信につながりました。「一見できそうにない技も練習するうちにできるようになります。『継続は力なり』ということをもっと感じていました。」

また、「礼に始まり、礼に終わる」ことを基本とし、礼儀を重んじる武道の精神から、技術以外にも多くのことを学んでいます。「目上の人への礼儀や上下関係も教わりました。それが人を大切に思う心にもつながっていると思います。」

現在初段の樽本さんは、12月に行われる昇段試験に向けて、練習に励む傍ら、週に一度、愛媛道場指導員として成人女性を対象とした教室で指導にもあたっています。「一人ひとりでできることが違うので、それぞれに合った指導をするように心掛けています。テコンドーはだれにでも気軽に始められるスポーツなので、もっとたくさんの人に広まってほしいです。」

小柄な体格ながら、柔軟性とスピードを生かした力強い足技を披露してくれた樽本さん。穏やかな笑顔の奥に、凛とした芯の強さを感じられました。